

## 第2回子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

**開催日時** 平成30年2月15日（木）午後7時～8時15分  
**開催場所** 南砺市役所福野庁舎 2階 201会議室  
**出席者氏名** 西井秀子会長、長谷川邦子副会長、青山喜美子委員、新敷秀子委員、大蔵博子委員、蟹野正男委員、唐嶋田鶴子委員、北清俊一委員、木村涼子委員、齊藤優華委員、富田利通委員、中田利佳委員、波多晶子委員、畠中昌代委員、宮川義文委員、築田晶子委員（16名）  
**事務局** 高田勇（教育長）、酒井啓行（教育部長）、渡辺洋子（福光保健センター）、武田秀隆、溝口早苗、吉岡亘、谷戸仁美（こども課）  
**欠席者氏名** 久保京子委員、高瀬英明委員、中川慎一委員、本多篠依委員（4名）  
**傍聴人数** 0名

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

会長 今年度第2回目の会議となる。今回は協議事項が2点ある。事前に資料は配布されていますが、事務局の説明を聞いて、委員のみなさんからの忌憚のないご意見をお願いしたい。また、議事の進行にご協力をお願いしたい。

### 3. 協議事項

事務局 資料の確認、会議の公開等について説明。

会長 最初に協議事項（1）平成30年度定員と入園申込状況について。

事務局 資料1に基づき説明を行う。平成30年度の認可定員と利用定員について説明。

NO.10の福光南部あおぞら保育園について、平成29年度の認可定員は、65人となっていますが、平成29年4月1日は、入園児童数が66人で、平成30年3月31日には73人の見込みとなります。また、平成30年4月1日には入園見込み数は72人、平成31年3月31日には79人となる見込みであり、明らかに定員の65人を上回る見込みです。また、資料の参考3では、平成30年度の市内全域並びに福光地区内の出生児数及び就学前児童数は減少傾向にありますが、福光南部地区の就学前児童数は増加傾向にあることから、現在の状況を勘案して、定員を65人から80人に変更したい。なお、福光南部あおぞら保育園は、平成25年の開園時は、定員が90人であったため、定員が80人になっても、面積の基準には充分適合しており、園児の受け入れは可能である。

城端さくら保育園、平みどり保育園、上平保育園、利賀ささゆり保育園は、それぞれの地域唯一の保育園であること、また、福光東部かがやき保育園については、福光東部地区唯一の公立保育園ではあるものの、地区内にある喜志麻保育園や、近くには幼保連携型認定こども園福光青葉幼稚園もあることから、今回は定員変更を行わず、平成30年度の入園実績や平成31

年度の入園見込み状況を勘案して、定員の検討をしていきたい。

会長 事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

A委員 福光南部地区の定員が、65人から80人に変更になった場合、保健師や看護師が配置になるのか。

事務局 現在は、定員が100人以上の大規模園に保健師や看護師を配置しており、100人未満の中規模園、小規模園には配置する予定は無いが、今後の検討課題の一つだと思っています。

会長 次に協議事項（2）平成29年度地域子ども・子育て支援事業の状況について。

事務局 続いて資料2について説明。

#### 1 子ども人口の推計

平成29年の0～11歳の合計数の実績は4,274人で、平成29年の当初計画推計値の4,208人よりは子どもの人口は、多くなっていますが、出生数の減少等により、確実に減少傾向にあります。

#### 2 地域子ども・子育て支援事業のニーズ量

南砺市子ども・子育て支援事業計画にある、10の事業についてのニーズ量の実績及び見込みを記載したもので、3ページ目以降の資料の、それぞれの事業のニーズ量をまとめたものです。

#### 3 施設型教育・保育事業

##### （1）教育施設（幼稚園、認定こども園）について

3ページの表の訂正。平成28年度②提供量の120人を109人に訂正、差異の32人を21人に訂正、平成29年度②提供量の135人を114人に訂正、差異の45人を24人に訂正。

この表は、「教育施設」、いわゆる、「認定こども園」の幼稚園部分に入園されている、1号・2号認定の利用者数である。平成29年度の利用者数は、前年度に比べて、2号認定の人数が増加し、全体でも、若干増加する見込みです。

##### （2）保育施設（認可保育所、認定こども園、地域型保育施設）について

この表は、「保育施設」、いわゆる「保育園」及び認定こども園の保育園部分に入園されている、2号・3号認定の利用者数で、平成29年度は、前年度に比べて、0・1・2歳児の入園の増加により、3号認定の人数は増加する見込みですが、就学前児童数の減少等により、2号認定の人数が減少するため、全体では若干減少する見込みです。

##### （3）認定こども園について

平成29年度は、前年度に比べて、低年齢児の入園の増加により、3号認定の1・2歳児は増加する見込みですが、その他は減少するため、全体では減少する見込みです。

#### 4 地域型保育事業

(1) 小規模保育事業、(2) 家庭的保育事業については、現在南砺市では実施していません。  
(3) 事業所内保育事業については、平成29年4月に福寿会の「あすなる保育園」が開設されていますが、「あすなる保育園」は、国が新設した、「企業主導型保育事業」のメニューを活用されており、事業所内保育事業としての実績には上がってこないもので、南砺市では現在実施していない事業です。(4) 居宅訪問型保育事業についても、現在実施していません。

## 5 相談支援事業

### (1) 利用者支援事業について

福光保健センターで実施しているすこやか親子相談支援事業のことで、情報の提供や、相談・助言を行っています。

### (2) 地域子育て支援拠点事業について

公立8か所と、私立1か所の市内9か所で行っている子育て支援センター事業のことで、平成29年度は、年間総利用者数が、減少する見込みですが、出生児数の減少や、低年齢児(0・1歳児)の保育園等への入園が増加し、子育て支援センター利用対象者数が減少していることが、大きな要因であると考えています。

## 6 訪問系事業

### (1) 乳児家庭全戸訪問事業について、

生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業のことで、平成29年度は、291人(100%)の家庭を訪問する見込みです。

### (2) 養育支援訪問事業について

養育支援が必要な家庭に対して、居宅訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、家庭の適切な養育の実施を確保する事業のことで、平成29年度は、延べ48人の居宅訪問をする見込みです。

## 7 通所系事業

### (1) 子育て短期支援事業について

この事業は、南砺市では実施していません。

### (2) 一時預かり事業について

1号認定と2号認定については、認定こども園の利用者数の合計で、上記以外というのは、認定こども園以外の公立・私立保育園の利用者数の合計です。平成29年度は、前年度に比べて、2号認定の利用者数は増加する見込みですが、1号認定と上記以外の利用者が減少する見込みで、全体でも減少する見込みです。ここでも、0・1歳児の保育園等への入園が増加してきており、一時預かりの需要が減っていることが主な要因の一つであると考えています。

### (3) 延長保育事業について

平成29年度は、前年度に比べて、年間実利用者数は、増加する見込みです。また、当初計画推計値よりも大幅に年間実利用者数が多い理由は、新制度への移行に伴い、夕方6時～7時だけではなく、早朝7時～8時、夕方4時～6時の保育も延長保育事業となったことにより、保育短時間利用認定の利用者が増加しているためです。

#### (4) 病児保育事業について

病児保育事業には、病気になった病児に対応する「病児保育」、病気回復期の児童に対応する「病後児保育」と、保育園等に来て体調が悪くなった「体調不良児」に対応する3つの事業がある。平成28年度実績から、大幅に利用者数が増加しているのは、看護師等の常駐している公立保育園6園でも、体調不良児に対応する事業を補助事業として採択されたことにより、実績として計上したため、平成29年度は、前年度よりも総利用数は減少する見込みです。

また、「病児保育事業」については、現在は実施していないが、今年度の保育園に入園している園児への保護者アンケート結果等でもニーズが高いことから、今後、実施に向けて、検討していきたいと考えています。

#### (5) 放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）について

就労家庭に対して、授業の終了後に子どもの居場所を提供する事業のことで、平成29年度は、398人の利用者数の見込みです。新制度となって3年目を迎え、利用者数は落ち着いてきています。

### 8 その他事業

#### (1) ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）について

児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と、援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、利用の調整を行う事業のことで、平成29年度は、586件の利用数となる見込みです。当初計画推計値よりも実績が著しく増加しているのは、児童館や放課後児童クラブの延長対応分をファミリー・サポート・センターで実施しているためです。また、今年度から、ひとり親家庭等支援による利用料助成を開始しており、利用件数の増につながっています。

#### (2) 妊婦健康診査について

妊娠届をされた方に、年間14回分の無料の健康診査受診票を配布し、保健指導等を実施する事業のことで、昨年度は、一部の方が、出産直前に妊娠届けをされ、受診回数が減ったことにより受診率が80%を切っていたが、平成29年度は、受診率は80%程になる見込みです。

(3) 実費徴収に係る補足給付を行う事業、(4) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業については、南砺市では実施していません。

会長 資料2の事務局の説明について、質問やご意見を聞かせてほしい。

副会長 ファミリー・サポート・センター事業での一般の方の登録会員は何人いるのか。

事務局 登録会員が約80人で、そのうち一般の方は約60人です。

会長 登録会員が少なく、うまく運営されていないことはないか。

事務局 うまく運営されていないことはありません。

副会長 福寿会の「あすなろ保育園」とは、南砺中央病院内の保育施設のことか。

事務局 「あすなろ保育園」とは、福寿園内にある企業主導型の保育施設のことである。  
南砺中央病院内の保育施設は、院内保育所で、その他、南砺市民病院内、福光あおい病院内にもあり、各々の施設に勤める職員のお子さんが利用している認可外保育施設に位置づけられています。

会長 企業内保育の設置について、商工会で話はでていないか。

A委員 現在のところ、商工会では話題にあがっていません。

会長 妊婦健康診査の受診率は80%となっているのに、乳児家庭全戸訪問事業は、100%訪問していると聞いたが、どういうことか。

事務局 乳児家庭全戸訪問事業は、母子手帳交付の際に同意のサインをもらい、必ず連絡してから訪問をしているので、100%となっています。

会長 この乳児家庭全戸訪問事業を、どのように次の養育支援訪問事業につなげているのか。

事務局 養育支援事業は、病院と連絡を取って実施しています。また、昨年9月から国の補助を受けて産婦検診を行っており、養育支援につなげています。

B委員 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業とはどういう事業か。

事務局 特定教育・保育施設を設置するため、民間業者が参入するにあたり調査研究するための事業である。詳細については調べておくので、希望があれば相談してほしい。

会長 最後に協議事項（3）その他について。

事務局 南砺市子ども・子育て会議委員の2年の任期が3月で満了となるので、公募委員の募集を開始している。また、各種団体からの推薦委員においても、今後推薦いただくことになるが、引き続き委員となってご意見を聞かせていただければありがたい。

会長 私たち全員、2年の任期が終わる。1期目の方は、少なくとも2期は委員となって、行政に

意見を届けてほしい。

会長        その他、全体を通してご意見はないか。

副会長      親が学ぶ事業について、研修や講習はどのように進んでいるのか。

事務局      生涯学習スポーツ課で、親学び講座を年30数回行っています。また、こども課では、イクメン応援事業や、もうすぐパパ・ママ講座等も行っています。今後も親としての意識を高めるため、各課との連携を取りながら事業を進めていきたいと思っています。

副会長      聞いてほしいと思う講演会を聞かない方が多いのではないか。

事務局      親になる前、保育園への入園、学校への入学等、段階を踏んで講演会等を行っていきたいと思っています。

B委員      病児保育の話も出ていたが、病気ときは親が面倒を見るべきだと思う。親が仕事を休みやすい環境づくりをしてほしい。

C委員      新聞で、「保育園落ちて良かった」という記事があった。保育園を落ちたことにより、育児休暇を取得できるということのようだが、都会ではそういう考えの方もいるのかと驚いた。

会長        親が子どもに関わる時間を確保するには、「働き方改革」が必要である。両親が早く帰宅して子育てに関わるのが本来の姿で、この体制を作るには職場の協力がほしい。南砺市は三世代同居率がかなり高い。祖父母に面倒を見てもらっていることに甘んじて、企業があまり本気にならない悪循環がおきているのではないか。

昨年、三世代同居率の低い富山市で、「孫育て手帳」を無料配布した。南砺市は三世代同居を進めていながら、親は祖父母に相談していない。三世代同居のひずみである。祖父母と親との世代間ギャップを縮めるためにも、南砺市も何らかの対応が必要でないか。

事務局      富山市の例を参考に、すぐには対応できないかもしれないが、検討していきたい。

会長        良い家庭環境を作るためには、親と祖父母が子育てに関する考え方を共有するのが理想的な形である。

C委員      親はできる限り働いて遅く帰宅するので、その間は祖父母が面倒を見ている。祖父母と親のギャップがあるので、子どもはどちらについて良いのかわからない。私の子どもがそうであった。祖父母に育てられたため、親に面倒を見てもらえなかったと言った。親として次の言葉がでてこなかった。

会長 子どもを安心して祖父母に預けて仕事に行き、仕事が終わったら「ただいま」と言って帰り、にこやかな子どもと対面できるのが理想である。

C委員 三世代みんなで円卓を囲み、雑談をする、「サザエさん」的な家庭が理想ではないか。

事務局 「働き方改革」について、こども課では今年度、「なんと！やさしい子育て応援企業認定制度」を設けて、15の企業を認定し、特に優れた子育て支援を実施している3社を表彰した。ようやく途についたところではあるが、この戦略事業を周知しながら、子育てと仕事が両立できるように支援していきたいと考えています。

会長 意見がないようなので、これで会議を終了したい。

#### 4. 閉会のあいさつ

副会長 委嘱状をいただいた2年間の任期の会議が今日で終了した。「子ども・子育て」については、子どもは育つ、親も育つ、自分で育つ、でも、支えやフォローや見守りが必要なので、毎日の暮らしの中で気付いたことを口に出すことが必要である。地域みんなで「子育て・親育て」をして、良い地域づくりになれば良いと思う。

教育長 熱心に協議いただき、たくさんの意見をいただいた。これらの意見を咀嚼して、これからの施策に反映させていきたい。福光南部あおぞら保育園の定員変更については、みなさまの了解を得たので、県への協議を行い、承認を待つことになる。

本日の意見にあった、手厚い保育のために保育士を増員すること、また、保育園に安心して預けることができるよう、大規模園だけではなく、中・小規模園における看護師の配置についても、できることから考えていきたい。

こども課の総合戦略事業で「イクメン」や「イクボス」等、多くの事業に取り組んでいる。「働き方改革」については、教育部だけではできないので、他の部と連携して、安心して子育てに専念できる土壌を固めていきたい。

会長、副会長をはじめとして、委員のみなさまには、2年間の任期を努めていただきありがとうございました。

午後8：15 終了